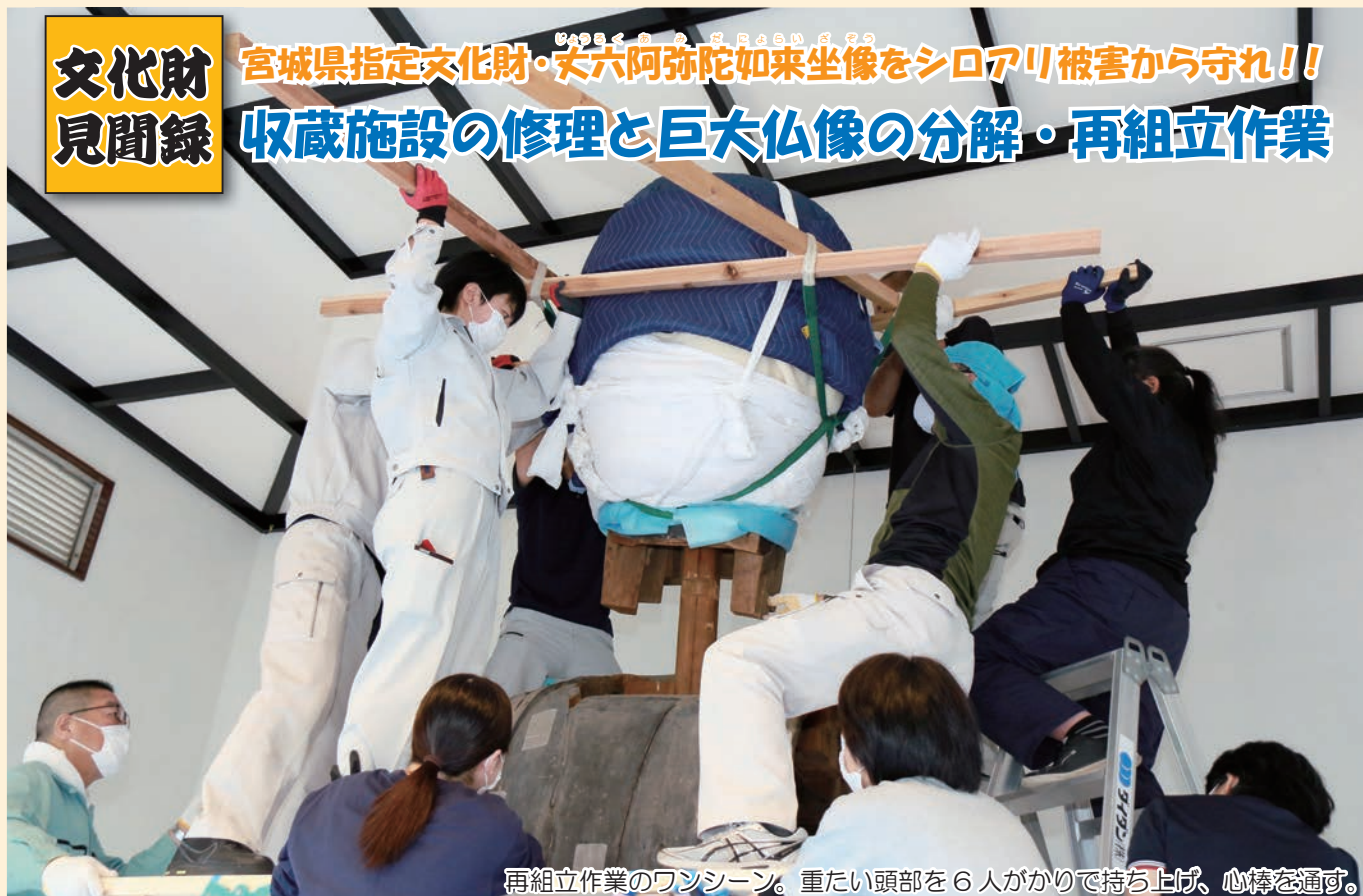




平沢・保昌寺の丈六阿弥陀如来坐像は平安時代後期に造られた町内最古の仏像であり、地域の歴史を語る上で欠かせない歴史遺産として県の指定文化財になっています。身長が一丈六尺(約4.8m)になるように造られていることから『丈六阿弥陀如来』と呼ばれており、台座等を含めた総高は3.8m。歴史的な仏像としては町内最大の巨像です。

令和元年、この仏像の收藏施設の床下にシロアリ被害が生じていることが発覚。貴重な仏像に被害が及ぶのを防ぐため、保昌寺が主体となり県・町からの補助金を得て総事業費205万円の保存事業(收藏施設の床・床下修理)を実施しました。

收藏施設の修理工事は床の解体、床下コンクリート打設、床の新規造作というごく普通の内容でしたが、着工前に仏像を移動させなければならないという大問題がありました。そこで、仏像修復の専門家・松岡誠一さん(新潟県在住)を招いて指導を仰ぎつつ、教育委員

会の職員が分解・移動から再組立までの作業を行うことになりました。分解・移動作業は令和2年10～12月に実施。頭部、胸部、台座など12部品に分解しました。その後、修理工事の完了を受けて令和3年5月に仏像の再組立作業を行いました。

再組立作業で最も気を使ったのは『元通りに戻す』ことでした。部品どうしの接合がゆるいため、慎重に組み立てないとバランスよく仕上がらないおそれがありました。また、ひとつひとつの部品が大きく重量もあるため、破損事故などを起こさないよう注意を払いつつの作業となりました。当日は一般公開も行い、多くの方々に再組立作業を見学していただきました。

分解・再組立作業の中で、仏像全体に多数の修理痕跡を認めました。これらの痕跡は、多くの先人たちがこの仏像を後世に残し伝えようとしてきた何よりの証拠です。今回の保存事業を通じて、先人たちの努力に連なる取り組みができたことを嬉しく思います。



とまぐく 下準備。塗膜を保護するための紙を貼る



そうはい 取り外した光背の大きさに驚かされる



いよいよ頭部。念入りに梱包する



分解した部品はお寺内の別建物で保管



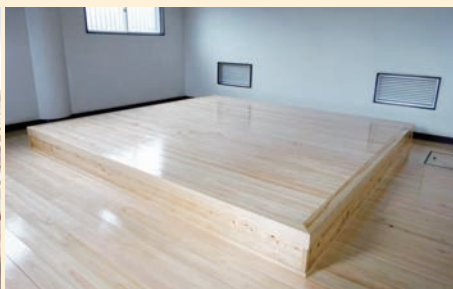
分解作業終了。床板の傷みが目立つ



床下の部材には深刻なシロアリ被害が…



シロアリ予防剤を塗布した部材で造作



修理工事完了！白木の床が美しい



台座の搬入。斜めにしないと入らない…



彼を基準に台座の中心出しをしています



頭部を持ち上げるための足場を組む



メチャクチャ重たい！！



ほこり 数十年ぶりの埃落し



ほこり たいそく 体側部の埃落し。ハケで優しく扱います



たいそく 体側部の接合。中々うまく合わない…



とまぐく 作業終盤。塗膜保護の紙をはがす



各部のバランスを微調整



組立作業、無事終了！

文化財トピックス

小野さつき訓導の殉職百年忌を記念

地域住民と宮小学校が力を合わせて記念行事を開催しました

大正11年7月7日、宮小学校の新任教师・小野さつきくんとつ訓導は、野外写生で出かけた白石川の河原で溺れる児童を助けようとして命を落としました。宮地区の人々は、命の尊さや人のために尽くす優しい心を育む教訓としてこの出来事を語り継いできました。今年は、小野訓導の殉職百年忌じゆんしよく（殉職から99年目）にあたります。

この大きな節目を記念するため、宮地区住民と宮小

学校とが実行委員会を組織し、6～8月の期間に、記念声楽コンサート、地域住民手作りの七夕飾り、殉職百年忌記念行事、殉職記念碑外構改修、第100回小野さつき訓導追悼式、打上花火鑑賞会など数々の行事を開催しました。大切な地域の歴史であり、地域住民の心に今も生き続けている小野訓導の教訓が、これからも末長く語り継がれていくことを願います。



殉職以来続いてきた7月7日の小野さつき訓導追悼式



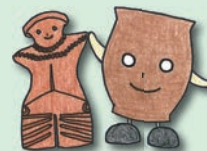
殉職記念碑に捧げられた地域住民手作りの七夕飾り

文化財 Q&A

蔵王山麓の縄文人は どんな暮らしをしていたの？

縄文時代の始まりである約1万3000年前は、地球全体に大規模な温暖化が起こり、世界各地で人びとが暮らす環境が大きく変化した時代です。日本列島では豊かな森が広がりはじめ、蔵王山麓でもブナやミズナラといった落葉広葉樹の森が広がり、そこにシカやイノシシ、ノウサギといった多くの動物が生息するようになりました。

気候が最も温暖で安定したとされる縄文時代中期（約5,000年前頃）になると、蔵王山麓の縄文人は、松川に面した丘陵にいくつかのムラを営むようになります。松川沿いの水辺に近い台地の上にある谷地遺跡さやどうやまや鞘堂山遺跡では、この頃の大きなムラの跡が発掘されています。そこでは、縄文人が暮らした竪穴住居跡とともに木の実などの食料を保存するために掘られた大きな貯蔵穴がいくつも見つかり、蔵



王山麓の森の恵みがムラの人びとの生活を支えていたことが分かります。



この頃の縄文土器には渦巻き模様のついた大きな飾りが目立つようになり、土偶や石棒といった祈りやまつりの道具も多く作られました。谷地遺跡では138点もの土偶が出土し、近隣から人びとが集まってまつりを行なう場でもあったようです。当時の縄文社会には、こうした近隣のムラ同士のつながりによる網の目状のネットワークがあり、バケツリレー方式の物流と交流が繰り返されました。町内の縄文遺跡から出土する北陸産のヒスイや蛇紋岩じゃもんがん、北海道産のアオトラ石といった石器石材や、関東・北陸地方の特徴を持った土器は、そうした活発な地域間交流を物語っています。

※町内の縄文遺跡について解説した文化財リーフレットをございんホールなどで配布しています。

文化財トピックス

重要文化財 我妻家住宅に地震被害

～保存修理（災害復旧）工事を実施へ～

2月13日に発生した福島県沖地震では、蔵王町でも震度6強の大きな揺れが観測されました。この地震により国指定重要文化財 我妻家住宅では土壁の崩落など大規模な被害が発生し、一般公開を中止しています。

今後、国や県の協力を得ながら保存修理（災害復旧）工事を実施する予定です。保存に万全を期するため、新たに建物の耐震診断を行なった上で構造補強などの必要性についても検討することになっています。

本格復旧までには今後数年間を要する見込みですが、見学者の安全が確保され次第、復旧工事の状況も含めて部分的な公開を再開する予定です。



漆喰塗りの白壁が大きく剥がれて崩落した我妻家住宅文庫蔵。ほかに主屋、穀蔵、前蔵と附属の土塀の土壁にも亀裂や崩落が生じ、板蔵、表門では傾きや歪みなどの被害が生じました。土壁は残った部分にもひび割れや剥離が生じており、下地からの塗り直しが必要です。

平沢弥陀の杉で保存整備事業

～大型ベルトで亀裂の拡大を防止～

県指定天然記念物 平沢弥陀の杉は樹齢約900年と推定される県内最大級の杉の巨木です。上部は3つの支幹に分かれていましたが、2008年に1つが折れ、現在は2つの支幹が残ります。その2つの支幹の間に新たに亀裂が確認されたことから、亀裂の拡大による支幹の脱落を防ぐため、2つの支幹を結束する大型のベルトを設置する工事を3月に行ないました。

結束に使用したのは通常は重量物の吊り下げなどで用いる「スリングベルト」と呼ばれるもので、弥陀の杉に合わせて製作された特注品です。従来の鋼鉄製の支柱に加え、今回の大型ベルト設置によって、弥陀の杉の保全と見学者の安全が確保されました。



大掛かりな足場を仮設し、高さ12mと15mの2か所にベルトを設置しました。使用したベルトは幅30cm、長さ11mで、1本あたりの耐荷重は20トン。伸縮性のあるベルトで緩やかに固定することで、杉を守りつつ当面の成長を阻害しないように配慮しています。



「蔵王町ふるさと歴史かるた」を制作

～限定500セットをございんホールほかで販売中～

町の歴史や文化財に楽しみながら親しんでもらうため、「蔵王町ふるさと歴史かるた」を制作しました。鮮やかな写真と、イメージふくらむ読み句で、町内各地に伝わる歴史や文化財、景観スポットを紹介します。解説シート付き。販売価格1,000円（消費税別）です。

最新の情報はWEBでチェック！！

蔵王町の歴史と文化財 公式ホームページ

どきたんドットコム <http://www.dokitan.com>

蔵王町の歴史と文化財 どきたん通信 No.004

令和3年（2021年）11月発行 [不定期発行]

蔵王町教育委員会 生涯学習課 文化財保護係

〒989-0821 宮城県刈田郡蔵王町大字門田字西浦5番地

TEL 0224-33-2018 FAX 0224-33-2019

E-Mail info@dokitan.com WEB <http://www.dokitan.com>